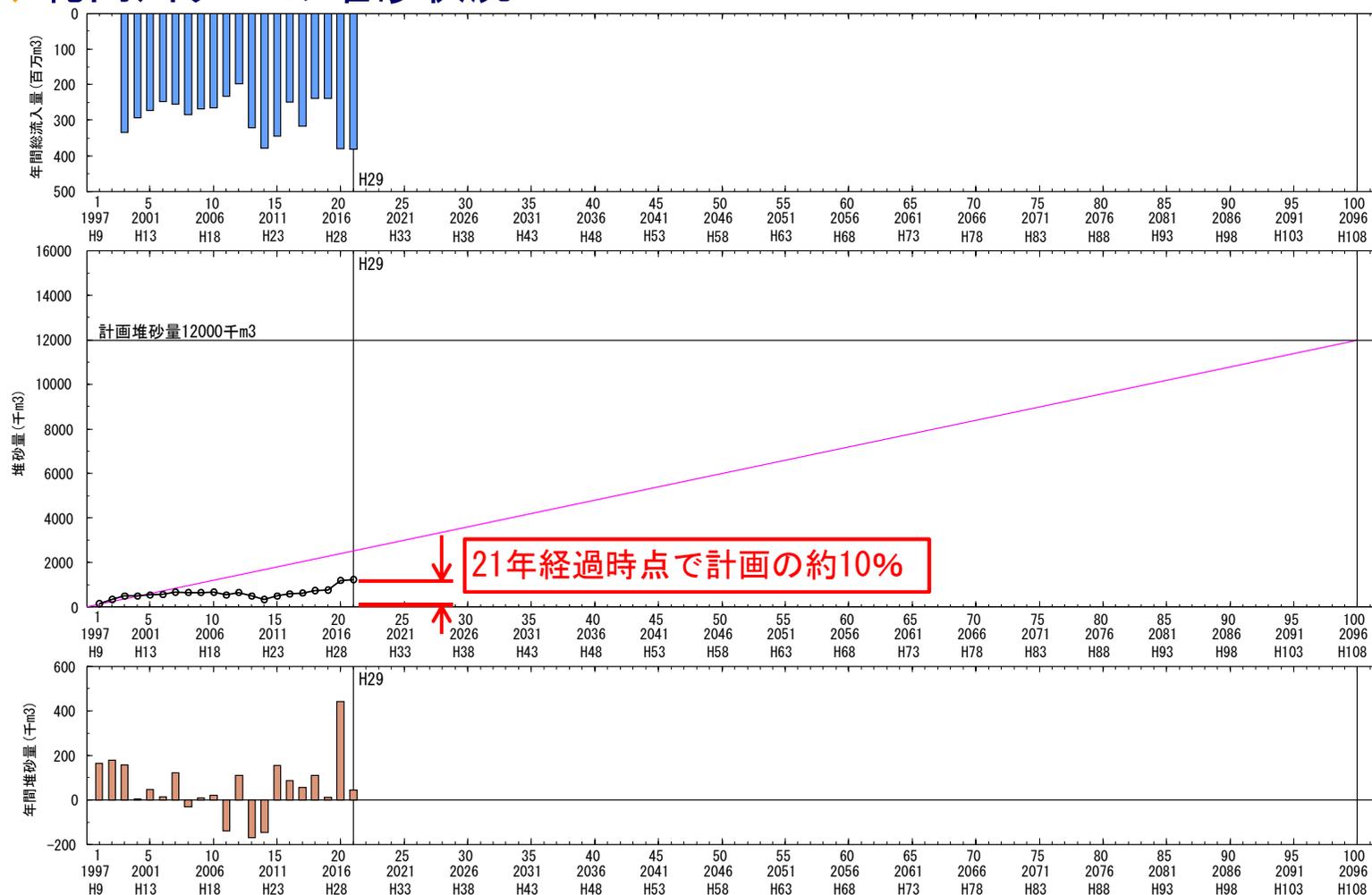


## 4. 堆砂

# 札内川ダムの堆砂状況

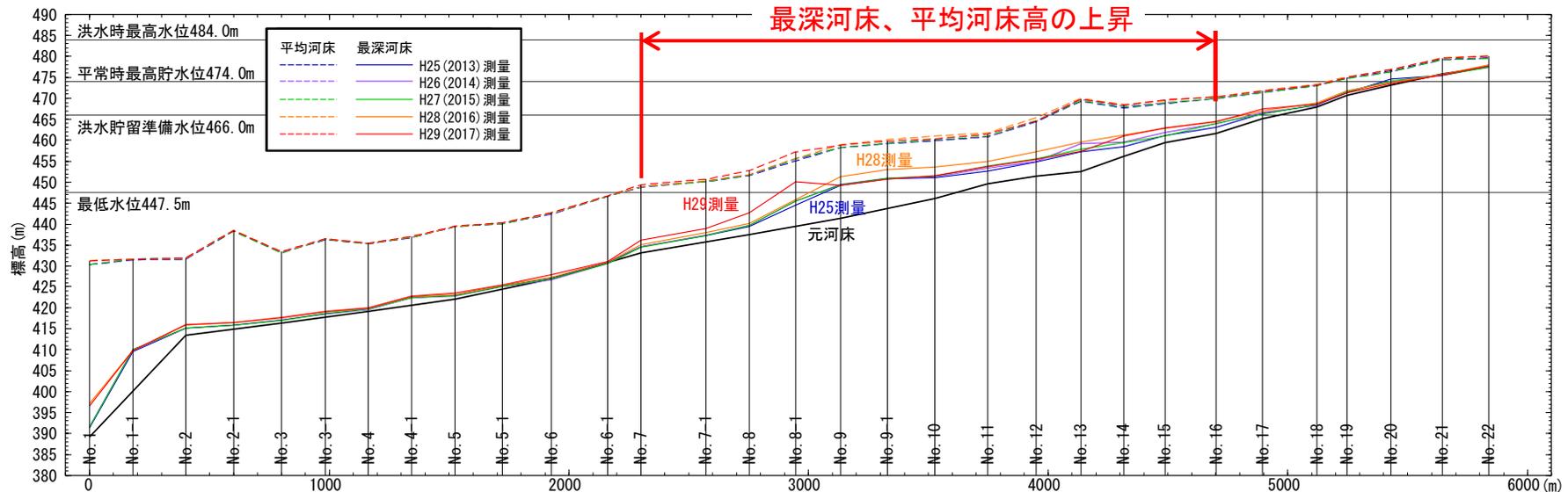
- ・ 札内川ダムの総堆砂量は、平成29年現在（計測開始後21年経過）で約125万 $m^3$ であり、計画堆砂量（1,200万 $m^3$ ）の約10%である。
- ・ 平成28年の洪水に伴い、約44万 $m^3$ /年の堆砂の増加が生じた。
- ・ 実績比堆砂量は504 $m^3/km^2$ /年であり、計画（1,000 $m^3/km^2$ /年）を下回る堆砂傾向である。

## ◆ 札内川ダムの堆砂状況



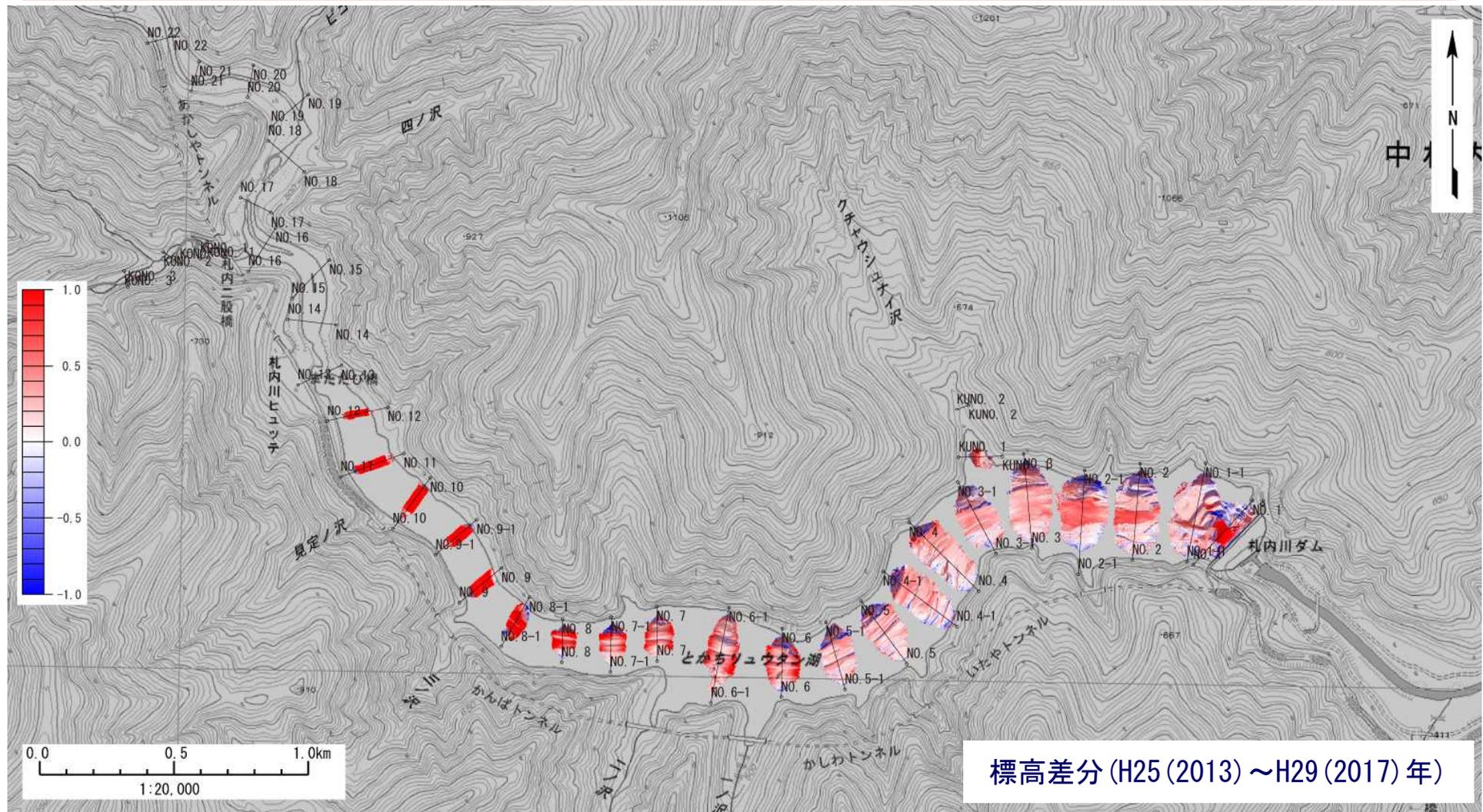
# 堆砂測量縦断面図

対象期間の堆砂測量成果から、貯水池の2.3km (No. 7) ~ 4.7km (No. 16) の区間で平成28年の洪水後に、最深河床高、平均河床高の上昇が認められる。



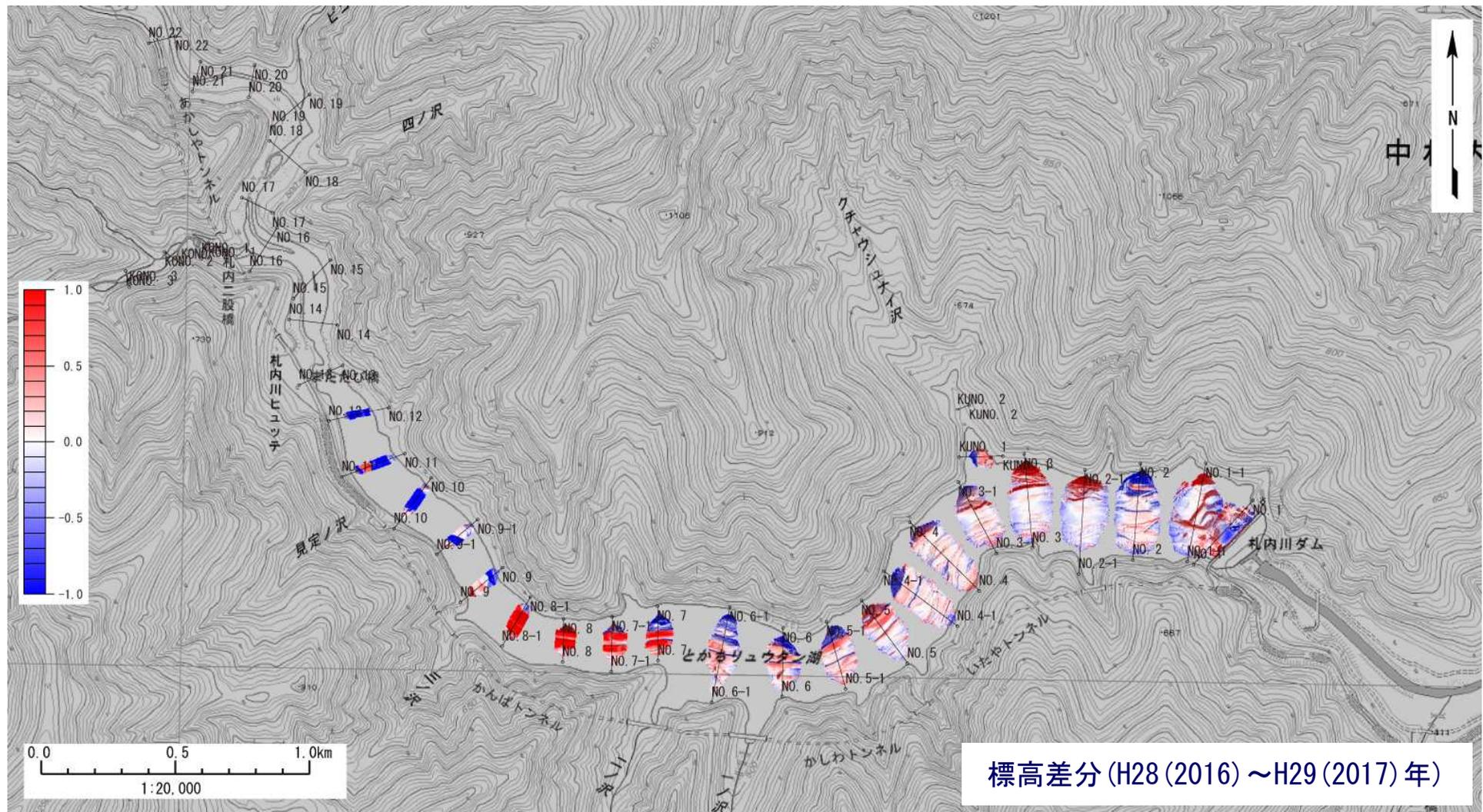
# 詳細な堆砂状況の分析①

- ・平成25年と平成28年のナローマルチビームによる貯水池内標高を比較すると、ダムから2.8km(No.8)～3.9km(No.12)の区間で標高の上昇が認められる。
- ・平成28年の洪水に伴い、貯水池に土砂が流入し、堆積したものと推測される。



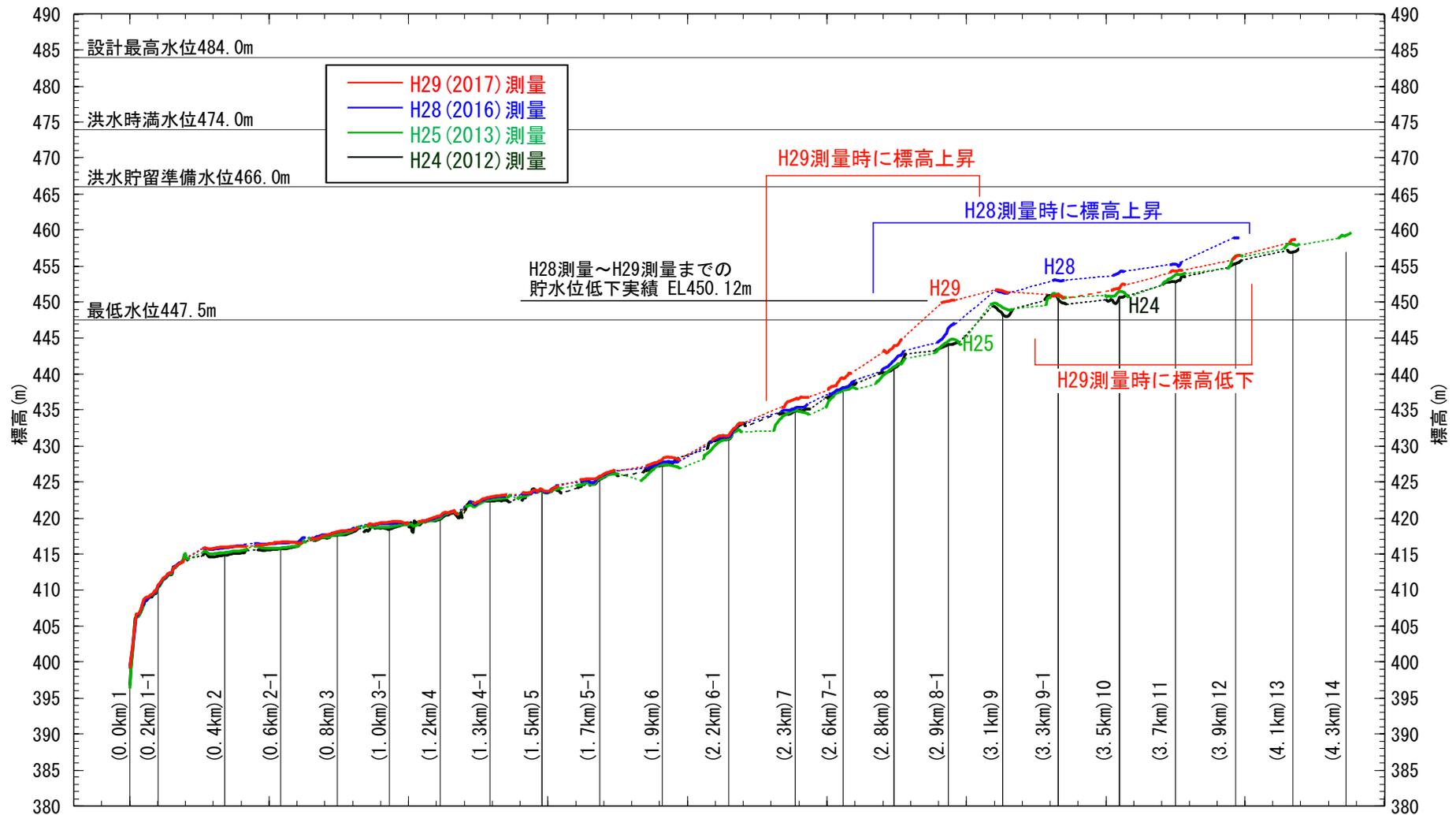
# 詳細な堆砂状況の分析②

- ・平成28年(2016)と平成29年(2019)の貯水池内標高を比較すると3.3km(No.9-1)～3.9km(No.12)の区間で標高が低下し、2.3km(No.7)～2.9km(No.8-1)の区間で標高が上昇した。
- ・貯水位低下時に土砂が移動したものと推測される。



# 詳細な堆砂状況の分析③

- 平成28年の測量で測線No8～測線No12の区間で最深河床高の上昇が認められる。また、平成29年の測量では測線No7～測線No9の区間で最深河床高の上昇が認められる。
- 対象期間では、平成28年の洪水に伴い貯水池内に土砂が流入し、その後の貯水位低下に伴い、堆積した土砂が下流側に移動したと推測される。



### ◆堆砂のまとめ

- 平成29年現在で21年が経過し、総堆砂量は125万 $m^3$ 、堆砂率が約10%である。
- 平成28年の洪水に伴い、約44万 $m^3$ /年の堆砂の増加が生じた。
- 平成28年の洪水に伴い貯水池内に流入した土砂は、その後の貯水位変化に伴い貯水池内で下流側に移動していることが確認された。
- 実績比堆砂量は504 $m^3/km^2$ /年であり、計画（1,000 $m^3/km^2$ /年）を下回る堆砂傾向となっている。

### ◆今後の方針

今後も継続的に堆砂測量を行い、堆砂量の進行を監視する。